



富岡製糸場総合研究センターだより

No. 33

(2023年11月発行)

富岡製糸場をもっと楽しむための豆知識をお届けします！

自動繰糸機についているコレは何？

富岡製糸場の繰糸所^{そうしじょ}には、1987(昭和62)年の操業停止時のまま、ニッサンHR型自動繰糸機が並んでいます。その自動繰糸機についている様々なパーツや付属物、気になりませんか？今回は、その中でも、自動繰糸機を陰で支える立役者をいくつかご紹介いたします。

まず、自動繰糸機のところどころに下がっている歯ブラシのような物。何をする道具かわかりますか？もちろん従業員がお昼を食べた後に歯を磨くもの…ではありません。自動繰糸機には糸の太さをチェックする織度感知器という2枚のガラス板を合わせたパーツがついています。そのガラス板の間を生糸が通ることによって太さをチェックしています。そこに様々なゴミが詰まるため、そのゴミを取るための道具です。

次に、繰糸機の手前、腰下あたりについている緑のたわし。生糸は上にある糸枠に巻き取っていきます。糸枠20個が1連になっており、一定数巻き終わると、その1連を同じタイミングで取り替えます。その際に切った糸端は見失わないようにこのたわしにまとめてひっかけておきます。糸枠を新しい物に取り替えたら、たわしからその糸端を取り、新しい糸枠の溝にひっかけてつけることでスムーズに糸枠の取り換えをすることができます。このように繰糸所では様々な名脇役が活躍していました。

◆ 発行 ◆

富岡市世界遺産観光部 富岡製糸場総合研究センター

バックナンバー
はこちらから▼

